



DXPの「どうするDX」《概要版》

食料品・飲料製造業 のDX革命

2026年、食品業界は「効率化」から「自律化」へ。AIとデジタル技術が産業のルールそのものを書き換えています。

株式会社DXパートナーズ

2026年1月20日

はじめに

3つの変革レイヤー

置換(Replacement)

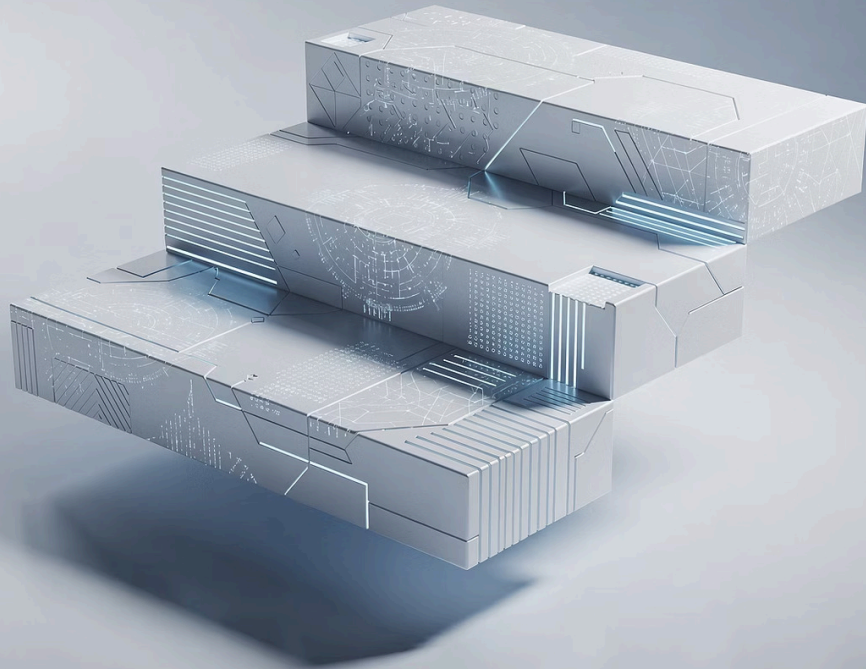
人間の認知・判断をAIが代替。
適応型ロボットが複雑な作業を
自律実行します。

活用(Utilization)

生成AIでR&Dサイクルを年単位
から月単位へ短縮。既存プロセ
スを劇的に高速化します。

前提(Rule Change)

データとアルゴリズムが価値の源泉に。ネットワーク効果で非線形成長
を実現します。





自律型ロボティクスの進化

AI搭載適応ロボット

Chef Roboticsなどの最新ソリューションは、コンピュータビジョンと強化学習で不定形な食材を認識・補正。粘着性のあるご飯や壊れやすい野菜の完全自動化を実現しています。

AI画像検査システム

キュービーは世界初のAI原料検査を導入。熟練工の「勘」をデジタル化し、変色や異物を瞬時に識別・除去します。



生成AIによるR&D革命



キリンホールディングス

20年分の醸造データを学習したAI「CoreMate」で開発期間を大幅短縮。2026年3月にAI開発ビールを発売予定です。



味の素

アミノ酸データベースと生成AIで減塩と美味しさを両立。4社連携でサプライチェーン全体のCO2削減も推進中です。



サントリー

工場のデジタルツインを構築。仮想空間でのシミュレーションで生産効率とエネルギー消費を最適化しています。

✧ 前提

ルールチェンジの最前線



Instacart

AIエージェントが顧客の意図を理解し、自律的に商品を提案・購入する「Agentic Commerce」を展開中です。



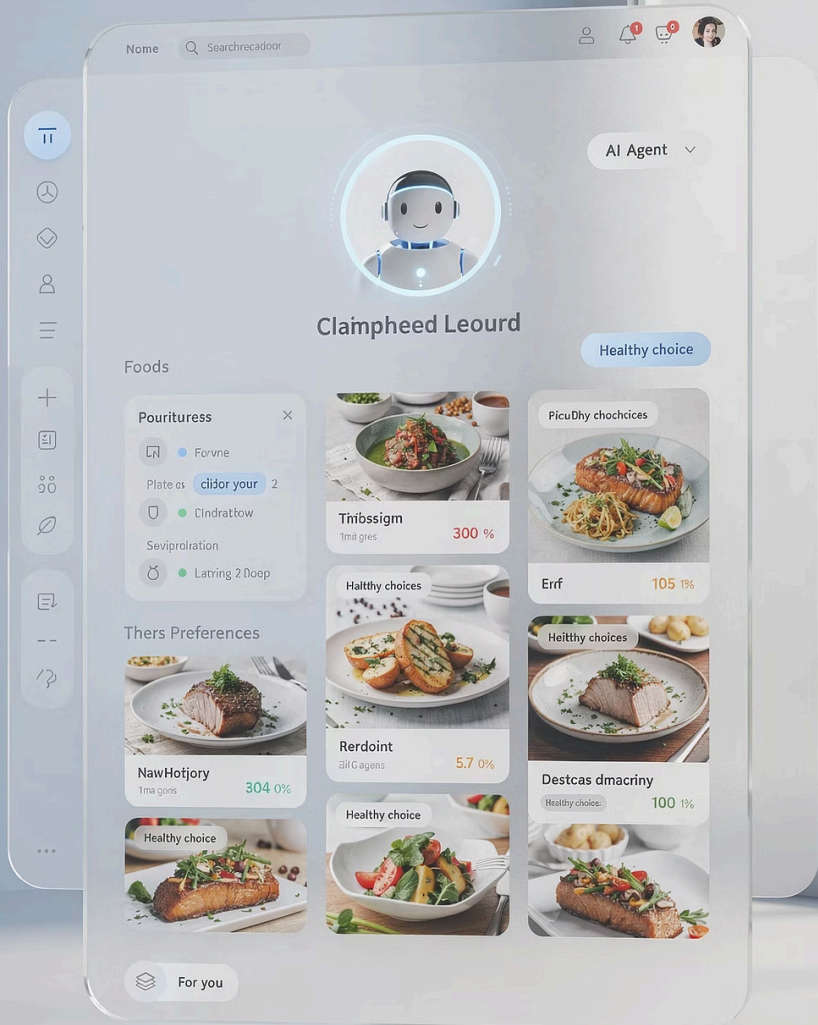
NotCo

AIプラットフォーム「Giuseppe」で分子レベルの食材データを活用。製品が売れるほどAIが進化する自己増幅モデルを実現しています。



BASE FOOD

完全栄養食をサブスクで提供し、顧客との継続的接点を構築。健康維持のインフラとして機能しています。



エージェントAIの台頭

2026年の技術的ランドスケープを決定づけるのは、「生成」から「エージェント」への移行です。

自律型AIの能力

- パントリー在庫の自動監視
- 栄養目標に基づく献立計画
- 自律的な発注と調達交渉
- 製造現場での自律制御



☐ SamsungやInstacartのAIエージェントは、消費者が選択を行わない「無選択型意思決定」の時代の到来を告げています。

技術トレンド

最新技術フロンティア



ビジョンAI

Samsung/LGの冷蔵庫が食材を画像認識。賞味期限管理と自動買い物リスト作成を実現しています。



デジタル味覚

電気刺激で味覚を伝送する技術が登場。メタバース試食や減塩食の味増強に応用可能です。



ジェネレーティブ・バイオロジー

AIでタンパク質構造を予測。自然界に存在しない新規食材を設計する時代が到来しています。





2030年への将来予測

1

2026-2027年

AIエージェントによる購買代行が普及開始。従来のマーケティング手法が無効化し始めます。

2

2028年

コモディティ食品の購買決定権が人間からAIへ移譲。AEO(Answer Engine Optimization)が必須に。

3

2030年

4C理論に基づく産業再編完了。企業は「Core提供者」と「Context生成者」に二極化します。

ツインターボエンジンの実装

1 ターボ1: 高速化

R&DとSCMを徹底的にAI化。生成AIによる仮想試作で打席数を劇的に増やし、失敗コストを削減します。

2 ターボ2: 自己増幅

データフライホイールを構築。D2CやIoT連携で消費データを取得し、R&Dに即座に還流させるループを作ります。

3 対AIマーケティング

製品データを構造化しAEO対策を実施。プラットフォームとのエコシステム形成が必須です。

新時代への挑 戦

「美味しい食品を作る製造業」から「食を通じてWell-beingを提供するテック企業」へ。企業アイデンティティの再定義が成功の鍵です。

3倍

開発速度

生成AI活用で製品開発
サイクルが年単位から
月単位へ短縮

24時間

稼働時間

自律型ロボットによる
完全自動化で生産性が
飛躍的に向上

2030..

転換点

デジタルを前提とした
新ビジネスモデルへの
完全移行

